知ってますか？桑名杯のこと！

「桑名杯レディーステニス大会」は1981年に、桑名寿枝子JLTF初代会長が自身の米寿を記念して、全支部に優勝カップを寄贈したことをきっかけにスタートしました。2009年には、各支部の代表選手が競い合う「地域桑名杯大会」も開催されるようになり、試合経験の浅い皆さんにも楽しんでいただける大会となっています。

桑名初代会長より寄贈された優勝杯

桑名杯レディーステニス大会
心にゆとり と 爽やかマナー！
広げよう テニスの仲間！
主催：日本女子テニス連盟

桑名杯のスローガンは「初心者にこそチャンスを与え、夢を与え、テニスの楽しさを伝えて行こう！」

【創設者、桑名元会長はこんな人】

日本女子テニス連盟の初代会長で桑名杯の創設者、桑名寿枝子（旧姓 加生スエ）は明治27年7月12日、福岡県に生まれました。家から学校までの往復８キロの道のりを、雨の日も雪の日も炎天下でも、着物に袴を履き、教科書と筆入れや弁当を入れた風呂敷を巻き付けて下駄履きで通ったそうです。軟式テニスとの出会いは高校生の時。テニス好きの先生が砂地にラインを引いてテニスコートを作ってくれた事がきっかけでした。当時は試合というと、年に１、2回の校内試合があるくらいでしたが、先生の指導でスエさんのテニスの腕はぐんぐんと伸びていきました。

23歳で結婚し、ご主人の赴任地アメリカで18年間を過ごしましたが、帰国3年前から現地のコーチに就いて硬式テニスを始めました。昭和10年の帰国後間もなく、東西トップ選手による対抗試合のメンバーに選ばれると、以後、テニス選手として留まるところを知らない活躍を見せました。

1976年に朝日生命久我山コートで開催された「全日本壮年混合大会」のエキジビションマッチに参加する桑名初代会長（当時82才）。ネットを挟んで右側は岡川理事長（当時12才）

国体は第1回大会から9回大会まで連続出場、芦屋全国グランドベテラン大会は第1回大会から27回連続出場し、その間3回優勝して92歳まで出場するなど、数多くの試合で輝かしい戦績を残しました。

また1958年に東京で開催されたアジアオリンピック大会では女子選手村村長、1960年のローマオリンピックと62年アジアオリンピック（ジャカルタ開催）ではシャペロン（世話係）を務めるなど、女子スポーツ界にも貢献しました。

日本女子テニス連盟の会長を15年間務める一方で、（公財）日本テニス協会理事も兼任し、平成5年4月、満開の桜に見送られて98歳9ヶ月の生涯を閉じました。

2025年 支部から届いた「あんな話、こんな話」

～我が支部の推しペア～

愛媛県（澤﨑真琴・宇都宮梨江ペア）

初心者のころからお世話になっている西田コーチのレッスンに一緒に参加して好きなプレースタイルも似ていて、性格も合って、食の好みも一緒なので一緒に組むことになりました。
普段は、形式練習やゲーム練習をしてテニスを楽しんでいます！

京都府（池田・影山ペア）

今年初参加で今回優勝のペアに接戦で惜敗されましたが、楽しくプレーされていました。同じ場所で練習されているので共有出来る事も多いので来年の本大会に期待！

鳥取県（神山幸子・仲川美津子ペア）

喜寿を迎えられる神山選手と、ペアの仲川選手。今年の最高齢ペアです。笑顔ではつらつとプレーされる姿は、私たちの目標です。今年は3位トーナメント優勝でした。

福岡県（髙松麻美子・森本幸子ペア）

2年連続惜しくも準優勝のお二人！
いつもウエアも素敵なPrettyペアです♡

熊本県（山川沙織・郭祐美ペア）

今年度女子連に入会しました。
テニスを始めて2年、先輩方に負けないように来年も桑名杯に出て頑張ります。

岩手県（千田亜美・遠藤友美ペア）

【前世は双子！？気の合う二人】
岩手からは、仲の良い素敵なおふたりを紹介します。岩手にUターンしてきた2人…同じサークルで出会い、子供達と離れた寂しさやこれからの不安を同じように抱えていた事に気づき、意気投合。気持ちを分かち合える友達となったそうです。洋服の好みも一緒で、似たような服装だったり色違いのTシャツを偶然買っていたりとシンクロする事も多いそうです。これからも楽しくテニスをして、美味しいお酒を一緒に飲む友人として過ごしていきたい、そう話してくれました。

制作/JLTF広報委員会